



**鐵輪** 宮崎精鋼株式会社

名古屋市中川区丸米町一丁目1番地 ☎052-361-2191 令和5年7月号

## 2022年度実績と2023年度計画

### ■2022年度(2022年6月～2023年5月)実績

2022年度は、半導体・部品の供給不足や中国市場等における日系自動車メーカーの販売不振による需要の低迷と、エネルギー価格の高騰による生産コストの大幅上昇の影響を受けた1年でした。半導体の供給不足が長引く中、自動車各社は半導体を国内生産に優先的に振り当てたことから、国内における生産は回復傾向に転じたものの、中国におけるEV化の加速や12月まで続いた「ゼロコロナ政策」による販売減、また北米では半導体不足や販売不振により前年比で生産減となるなどの影響により、わが社の生産・販売数量は前年を下回る結果となりました。また、以前より生産コストの押し上げ要因となっていたエネルギー価格は、2022年度に入った以降も上昇を続け収益を圧迫しました。これらの結果、わが社の2022年度決算は、売上高359億円、経常利益534百万円となる見通しで、CIF30で設定した目標水準には残念ながら届きませんでした。

	単体決算(速報ベース)	連結決算(5社*単純合算)
売上高	359億円	455億円
営業利益	497百万円	756百万円
経常利益	534百万円	978百万円

\* 5社：宮崎精鋼(単体)、東洋精鋼、交邦磨棒鋼センター、宮崎エンジニアリング、Miyazaki Seiko de Mexico (MSM)

### ■2023年度(2023年6月～2024年5月)計画

2023年度は、2022年に策定した中期経営計画(CIF30 = Challenge our Innovative Future 2030)の2年目となります。2023年度の計画は、売上高409億円、経常利益7.6億円としました。足元の需要は、一部半導体や部品不足の影響が残っているものの、自動車の国内生産は前年を上回る水準となっており、サプライチェーンの長い磨棒やファインスラグについては、回復にはなお時間が必要ではあるものの、CH鋼線については需要の回復が徐々に顕著となって来ています。中国における日系自動車メーカーの販売不振やEV化の加速によるエンジン車用部品需要の減速、あるいは、長引くロシアのウクライナ侵攻等によるエネルギー価格動向への影響など、不透明・不安な要素が未だ少なくない状況にありますが、収益計画やCIF30で設定した課題・目標をしっかりと達成すべく、社員一丸となって頑張りましょう。

	全社	磨棒	鋼管	CH鋼線	ファインスラグ
販売数量	172千トン	33千トン	2千トン	125千トン	12千トン
売上高	409億円	77億円	6億円	282億円	44億円
営業利益	804百万円	239百万円	1百万円	390百万円	174百万円
経常利益	764百万円	209百万円	1百万円	381百万円	173百万円

